

II-1 教育活動による効果

①所得増加

所得増加＝生涯賃金の差×県内就職者＝33.2億円

大卒と高卒の生涯賃金差 67,758千円 (富山、徳島、長崎三県平均、同報告書、男)
富士大学県内就職者数 49人 (平成27年4月1日時点)

②個人の消費 (所得増加に伴う消費)

消費増加額＝生涯消費額の差×県内就職者数＝24.2億円

大卒と高卒の生涯消費額差 49,392千円 (富山、徳島、長崎三県平均、同報告書、男)

③税収の増加

税収増加＝生涯支払住民税の差×県内就職者数＝1.7億円

大卒と高卒の生涯税収差 3,429千円 (富山、徳島、長崎三県平均、同報告書、男)

II-2 研究活動による効果 (略)

II-3 立地による効果

1) 消費の活性化

①教育・研究活動 725百万円 (H26 大学教育研究費+管理経費)
②教職員・学生の消費 1,394百万円 (H26 大学人件費+H26 全国学生生活費)
自宅：自宅外＝2：8として加重平均
③施設整備費 67百万円 (H26 大学施設関係費+設備関係費)

⇒ 大学の活動による消費 21.9億円 (2186百万円)

2) 波及効果

①生産誘発効果 33.6億円 (H21 岩手県産業連関表経済波及効果簡易分析ツール)
②付加価値誘発額 25.0億円 花巻市内純生産額 2299.9億円 (H24) の1.09%
③就業者誘発量 279人

以上